農地・水保全管理支払交付金優良表彰 宮城県知事賞

下刈敷地区環境保全活動組織(栗原市)

~めだかっこ米が地域を一つに~

栗原めだかっこ米の栽培、商標登録、消費者・被災者との交流、視察等の受入

農業生産活動の維持・発展や地域の活性化、農村環境の保全を図るために、地域ぐるみでの効果の高い共同活動や農業者ぐるみでの先進的な営農活動に取り組む活動組織に対し表彰する。

地域の現状

下刈敷地区では、農業者の兼業化や高齢化が進んでおり、住民は集落を取り囲む 美しい水田や地域の行く末に不安を感じていた。

兼業農家の90%に高齢化が進み、後継者不足にも悩まされていた。



取組内容

農地・水を取り組む前から実践している化学肥料と化学合成農薬を地域で使用されている量から半分以上減らす活動を実践し、農家、非農家が一丸となり草刈りや花の植栽など共同作業を行っている。

また、子供達の笑顔が組織力・地域力の源であると考え、市立志波姫小学校の総合学習の一環として、田植え体験、地域に縁の深いめだかを田んぼへ放流、稲刈り体験と生産の一連の流れを体験してもらい、米作りの苦労と収穫の喜びも子供達に伝えた。この活動により、生態系の学習と環境保全の大切さ、命を育む田んぼの大切さを、学習してもらった。



【地区概要】

- •取組面積 田 126.8ha
- ·資源量 開水路14.16km、農道9.5km
- ・主な構成員 農業者、農業者以外、 子供会、小学校等
- •交付金 約4百万円

効果、課題、今後の展開

この一連の活動により生まれたお米は、 うまみ成分の高い安全安心な独自栽培米 として高い評価を受けて、地域を象徴する お米となり、現在「**栗原 めだかっこ米」**とし て商標登録し、栗っこ農業協同組合の協力 のもと販売するまでに成長している。



農地,水保全管理支払交付金優良表彰 協議会長賞

上川名地区資源保全隊(柴田町) ~町一番の美しいムラと農村レストラン~

活性化組織発足、農家レストラン開設、ホタル鑑賞、都市・被災地との交流

将来にわたって農業・農村の基盤を支え、環境の向上を図るため、農家及び非農家を含めた地域ぐるみによる、地域振興の一翼を担っている活動組織。

地域の現状

少子高齢化、農業の担い手不足等の課題 を抱えている地域である。 住民同士の交流も失われていた。



取組内容

農家のみならず、非農家の方も参加出来る活動を行った。その一環としてホタル鑑賞会を開催するに至った。

また、地域食材や地場産品を活かした食文化の伝承や農産物の生産技術を活かしながら構成員相互の知恵と創意工夫で、地元農産物を使った**農村レストラン**を開設し、食文化の伝承を通じて地域の活性化に力を入れている。

郷土史研究を推進するために、貝塚周辺の公園化・里山ハイキングコースの整備等にも取り組んでおり、目には見えない心の「結い」と目に見える「景観」を守り育てている。

※「農村レストラン」は平成24年2月3日(金) にオープンした。

【地区概要】

- •取組面積 田 49.8ha
- •資源量 開水路5.6km、農道2.5km 溜め池6箇所
- ・主な構成員 農業者、農業者以外、 土地改良区、JA等
- •交付金 約1.6百万円

効果、課題、今後の展開

「町一番の美しいムラにしたい」という志が、農家のみならず、非農家の方にも心境の変化として表れ、積極的に共同活動に参加するようになった。

その活動の一環として行っている、ホタル 鑑賞会は、失いかけていた地区内外の住 民との貴重な交流の場にもなっている。

また、区民有志による地区民の少子高齢化、農業の担い手不足等から未来を考える上川名地区活性化推進組合を発足し、地域の発展に力を入れている。



H23 豊かなむらづくり全国表彰 農林水産大臣賞受賞

おのだ城内・上句集落活動組織(加美町) ~「絆」が支え、「結い」が育む城内・上区~

豊かなむらづくり全国表彰

農林水産業の振興を中心に、生活、文化等を含む幅広い地域活動を展開し、地域の活性化を図っている優良事例の表彰を行い、その業績発表等を行うことによって、むらづくりの全国的な展開を推進し、農林漁業及び農山漁村の発展に資することを目的として、昭和54年から実施している。

地域の現状

本集落は、古来から行われてきた「結い」により、集落住民全員で農道や用水路等の維持管理を行ってきたが、昭和60年頃から、住民の高齢化などにより、農業者だけでこれらの維持管理を行う状況となっていた。



取組内容

集落の営農組織である上区城内営農組合が中心となり、非農家世帯にも声を掛けて話し合いが持たれた。

その結果、「結い」の精神を見直し、地域 ぐるみで農村環境保全や水質の向上等を 目的とした活動を行っている。

生産面では、加美町でつくられる堆肥を 活用した資源循環型農業及び減農薬等の 実施による環境負荷低減農業を実践し、環 境保全米として生産・販売を行っている。

また、6次産業化に向けた取組みとして、 集落産米を使用したもち加工や、安全性の 高い玉ねぎの契約栽培等を行っており、今 後は集落産大豆による、みそ加工も検討し ている。

地区内の耕作放棄地等を活用し、ビオトープエリア及びホタルの生息地エリアを 設置し、地域の子供達と農地の水質調査 や生き物調査を実施している。

また、加美町グリーン・ツーリズム推進協議会と連携して仙台市立松陵中学校の農業体験・農家民泊の受入も行っている。

【地区概要】

- •取組面積 152.37ha
- ·資源量 開水路28.9km、農道1.2km
- ・主な構成員 農業者、農業者以外、 土地改良区、JA等
- •交付金 約3.3百万円

効果、課題、今後の展開

活動がきっかけとなり、松陵地区と災害時の相互支援協定を結び、農村と都市が補完し合う新しい「結い」の形が生まれている。



援助資の搬送(3.11東日本大震!)

農地・水保全管理支払交付金優良表彰 ステップアップ賞

枝野7区資源保全隊(角田市)

~資源循環型社会形成 · 環境保全学習~

遊休農地に菜の花栽培、菜の花プロジェクト・祭り、小学生と環境学習会、BDF燃料取組予定

様々な状況に柔軟に対応し、地域のこれからを見据えた活動に取り組む活動組織に対し表彰する。

【地区概要】

- ·取組面積 田28ha、畑5h
- ·資源量 開水路10km、農道4.3km
- ・主な構成員 農業者、農業者以外、 アグリセンター、土地改 良区、PTA等
- •交付金 約7.3百万円

地域の現状

集落内の高齢化、混住化、農業後継者不足の進行に伴う集落機能の低下により、適切な保全管理活動が困難になりつつある。



取組内容

地域住民によるワークショップを開催し農業者だけでは無く非農家も含めた形で、資源保全活動を行うための合意形成を図り、地域内の農地農業用水等の資源が今後も適正に保全・維持できるよう中期的な計画を考え、水と土を守り豊かな自然環境を子供達に引き継いでいけるように、将来性のある集落環境の基盤づくりのための景観形成と共に循環型社会の実現に向けた菜の花プロジェクトを実施している。



効果、課題、今後の展開

地域の農家並びに非農家が積極的に参加するようになり、農地と施設の保全が図られるようになった。

農道や水路の裏面に植栽を実施したことにより環境保全に対する意識が高くなり、 地域住民の結びつきが更に強くなった。

今後は、**菜の花プロジェクト**を発展させ、 BDF燃料を作り資源循環に取り組みたい。 また、地域農業の担い手の育成にも力を 入れていきたい。



農地・水保全管理支払交付金優良表彰 生態系保全賞

八沢環境保全会(栗原市)

~生物多様性に向けた活動を地域活性化に活かす~

ため池のブラックバス駆除、絶滅危惧種の保全活動、都市との交流

外来種により生態系に悪影響及び問題を引き起こしている現状を深く理解し、もともと生息していた在来種の復活や外来種の駆除に取り組んだ活動組織に対し表彰する。

地域の現状

農業従事者の高齢化や後継者不足により集落機能の低下や、農地の適切な保全管理が困難な状況であった。



取組内容

用排水路、農道等の草刈りや泥あげ、農業水利施設の補修を行いながら適切な保全管理を行っている。

また、ブラックバスの駆除や魚道の設置を行い地域の生態系保全の意識が向上した。

シナイモツゴ、ゼニタナゴなど**絶滅危惧種の保全**を行い、増殖したフナや海老を食材として都市住民との交流につなげている。









【地区概要】

- •取組面積 田 92ha、畑 4ha
- ・資源量 開水路32.1km、Pライン17.6km 農道22.9km、溜め池15箇所
- ・主な構成員 農業者、農業者以外、 ナマス・の学校等
- •交付金 約2.9百万円

効果、課題、今後の展開

ブラックバスの駆除を行ったことにより地域の生態系保全の意識が向上し、シナイモツゴやゼニタナゴなどの希少種が増えつつある。

増殖したフナや海老は食材として活用し、 都市住民との交流を図りながら地域活性 化に結びつけている。

また、地域農業の担い手を育成することにも力を入れている。



農地・水保全管理支払交付金優良表彰 学校教育との連携賞

曽根地域環境を守る会(栗原市)

~地域の魅力を子供達に伝えたい~

仙台市内の小学生受入、米粉ピザ等の体験実施、都市との交流

未来を担う子供達と構成員が一緒に、収穫の喜びとそこに行きつくまでの作業を体験してもらうことにより、環境保全の大切さと命を育む産業である農業に理解と興味を抱くような活動を実践した活動組織に対し表彰する。

地域の現状

農業従事者、自治会、集落団体組織及び地域住民が中心となり活動を行っている。



取組内容

消費者との農業体験を通した若者の定住を図る。

特に、小学校と連携した農業体験や環境 保全活動を開催し、地域の子供達に農業 の大切さと親しむ心を育てている。

また、グリーンツーリズム等も活用しながら農産物の生産を普及にもつとめている。







【地区概要】

- •取組面積 田 95ha
- ·資源量 開水路23.4km、農道6.8km
- ・主な構成員 農業者、農業者以外、 土地改良区等
- •交付金 約2.9百万円

効果、課題、今後の展開

本組織は、地域共有の貴重な資源である ため、今後も農業者だけで無く農業者以外 の方々の参加出来る共同活動に取り組む。

個人、団体等がそれぞれ利益や恩恵を 受けていることを地域住民に対して啓発し 資源の適切な保全に取り組む。

高齢化により農業者等は激減すると想定されることから新たな地域の担い手を育成し確保をめざす。

農地・農業用施設を保全しつつ、減農薬、 減化学肥料の環境保全型農業を発展させ、 自然環境を守りながら永続できる農業農村 づくりに取り組む。

農地・水保全管理支払交付金優良表彰 地域の結い・絆賞

松掛木沼地域資源保全隊(丸森町)

地域の現状

阿武隈川左岸の沖積平野丘陵が複雑に

入り組んだ当地域は、超軟弱地帯からほ

場整備と併せ排水対策特別事業で多くの

高齢化・混住化が進行し、集落機能と低

め、地域住民と多様な主体参画を得て農業

の持続的発展と多面的機能の健全な発揮

下で適切な保全管理が困難になっている

現状から良好な保全と質的向上を図るた

農業水利施設が造成された。

を図るため活動組織を設立した。

~地域の絆で若者の定住と農業農村づくりに取り組む~

土地改良区との連携、蛍とユリの里づくり、ホタル鑑賞 農地・水・環境保全向上対策では、「結い」の復活を掲げております。 本対策で培った「結い」により地域一丸となり力強く推進する活動組織に対し表彰する。

取組内容

年間の活動計画を立てる際、ワークショッ プを開催しており、個々からの意見や問題 点を地域の課題として共有している。

子供達との交流の場としては、「蛍と山ゆ りの里づくり」としてカワニナの養殖や山ゆ りの群生地である本地域を看板などで啓発 している。

また、水質・生き物調査では、子供達は歓 声を上げながら活動した。

効果、課題、今後の展開

【地区概要】

自然と共生する地域づくりをすすめた結 果、子供達に、農の多面的機能をあらため て周知できた。

今では子供達を通じて、非農家も地元の 美しい農村風景や環境、農業の大切さに 理解を示し地域ぐるみで保全するという絆 が生まれた。

今後とも、地域資源である、「農村にあふ れる命」を、子供達との楽しい活動、農地を 保全する使命を忘れずに活動を行っていき たい。









•取組面積 田 57ha、畑 6ha

•交付金 約2百万円

•資源量 開水路13.3km、Pライン1.3km

主な構成員 農業者、農業者以外等

農道9.1km、溜め池1筒所

小船越地域保全会農地・水・環境保全組織(石巻市) ~地域の絆を取り戻す~

地域の現状

本事業に取り組む前は、地区内の課題であった、立場の違う方々とのコミュニケーションが無く、地域の「絆」が薄れていた。



取組内容

美しい田園景観の保全や水路などの施設は、地域の財産として、地域住民で延命化を行っている。

また、転作で大麦、大豆、野菜、ハウス園 芸にも力を入れている。





効果、課題、今後の展開

【地区概要】

•取組面積 田 271ha

•交付金 約6百万円

•資源量 開水路33.6km、Pライン32.6km

・主な構成員 農業者、非農業者

本事業に取り組む前は、地区内の課題であった、薄れつつある地域の「絆」が、立場の違う方々と地域振興のため、一緒に汗を流すことによって、農業者同士の「絆」は以前のように強まり、また、農業者と非農業者の間でも新しいコミュニティーが生まれるなど、地域全体が活動を通して良い方向に進んでいると実感しています。

今後も関係機関等の指導を受けながら、 地域が一丸となって活動に取り組んでいき たいと思います。







南原ホタルの里保全の会(大崎市) ~4種類のホタルが棲息できる地域を守る~

地域の現状

私達の活動舞台である南原地区は戸数 18軒で水田面積は40ha程の小さな地区で、 耕地は高台にあり、米を作る為の水を確保 することが最大のテーマになっている地域 である。

10筒所以上に及ぶ溜め池を1筒所に集約 して水を確保し、今日の南原地区の稲作を 継承している。



取組内容

安定した水の確保が大きな課題であり、 農地の保全には水路・溜池・農道等の補修、 保全を今後とも継続して行う必要がありま す。溜池付近には源氏ボタル・平家ボタル・ ヒメホタル・クロマドホタルの4種類のホタル が棲息しており、毎年6月末のシーズンにな ると多くの観賞者が訪れます。穴堰用水に は歴史的灌漑建造物として小学生が社会 科の勉強に、又関係者も見学に訪れます。 最近では用水路を使った小水力発電の実 験も始めた。

【地区概要】

- •取組面積 田 38.59ha
- ·資源量 開水路11km
- 主な構成員 農業者、非農業者 JA 等
- •交付金 約 0.8百万円

効果、課題、今後の展開

小さな集落で厳しい自然環境に囲まれて いますが、「多面的機能支払交付金」を活 用し、住民が力を合わせてより良い地域、 ふるさとを創る為に日々努力を続けたいと 思っております。







浅部農地・水・環境保全組織(登米市)

~ 「献上米の里」にふさわしい美しい田園風景をめざして~

地域の現状

私達「浅部農地・水・環境保全組織」は、 宮城県の北部に位置し、栗原市、本吉郡、 桃生郡、北は岩手県に接して、古くから米 の名産地「献上米の里」として知られてい る地域で、米の品質も「特Aランク」の評価 を頂いている。平成21年3月22日に三陸 自動車道登米ICが開通して以来交通量が 増加し、登米市の物流の玄関口ともなって いる。



取組内容

組織の推進方針は、継続的保全活動を 目指して、皆で楽しみながら無理なく活動 することを基本とし、個人では手の届かな かった筒所の保全にも力を入れること、こ れらを組織の共同活動の方針として位置づ け作業をしている。

作業は出来るだけ全構成員で協力して行 えるよう計画し、作業時間も日曜日の早朝 2時間程度、それ以上の時間が必要となる 場合は、予め2回に分けて実施する計画を 立て、身体的、精神的にもムリの無い活動 を心がけている。そのことにより、江払い、 草刈等の重労働についても、構成員の8 5%以上の協力を頂いている。

個人・団体間の育くみ





【地区概要】

- •取組面積 田 77ha、畑 3ha
- •資源量 開水路6.5km、Pライン3.2km
- 主な構成員 農業者、非農業者、 PTA 等
- 約 3.2百万円 • 交付金

効果、課題、今後の展開

この活動も3年目となり、構成員の皆さん も農地・水・環境保全に対する意識・取組 が変わってきており、今まで気にもかけな かった事が、"人に見られる"という意味合 いから、自分の田畑の保全管理と維持に 意欲がわくようになった。

今後の課題としては、農業従事者の高齢 化に伴い作業に参加でき兼ねる方、個々 の農地に対し時間的にも手が回らない方 の農地の保全管理をどのように行っていく のかが課題となっているが、今後とも三陸 道登米IC周辺の地区として、お越しの皆さ んに、我々の美しい田園風景を見て頂ける よう努力していく。





地域の現状

以前は豊かな自然に恵まれているが、農

村部では高齢化・過疎化・混住化が進み、

従来からあった集落機能が低下していた。

が少なかった。

これらの地域の課題について話し合う場

志波姫地区十文字地域環境保全会(栗原市)

~ 美しい田園風景を学校教育に活かす~

取組内容

十文字地区では、平成19年4月から農地・水・環境保全向上対策に取り組み、農家と非農家に関係なく、構成員120名(130ha)で農地や農業用施設の維持管理活動等を行っている。

特に学校教育との連携では、小学生以下 の子供達を対象に、田植えと稲刈り/脱穀 体験を行い、ひとめぼれ約600キロを収穫 した。更に美しい田園景観が地域の財産で ある事を学習してもらっている。

また、志波姫十文字地区「秋の交流フェスティバル」を開催し、更に多くの方々に理解を深めて頂く努力もしている。

効果、課題、今後の展開

主な構成員 農業者、非農業者

【地区概要】

•取組面積 田 99ha •資源量 開水路23.7km

•交付金 約3.1百万円

様々な立場の方が一緒に作業をすることにより、お互いを知る機会が増え、農家と 子供を含む非農家は大変良い関係になっている。











